



介護リスクマネジメントNEWS

自宅で食事中に誤嚥が発生した事例

調理をしていたホームヘルパーが即座に対応

サービス種別 訪問介護

トラクレ種別 誤嚥

発生場所 自宅

介護状況 介護中

本人の状態 咳が続いたため救急搬送

ご利用者Aさんの状態

- Aさんは87歳の男性で、要介護2。一人暮らしをしており、近隣に息子夫婦が住んでいるが、平日日中は仕事のため不在。
- 下肢筋力の低下により歩行時にふらつきがあり、転倒に注意するよう指示が出ている。
- 嚥下機能に問題はないとされているが、歯が上下合わせて5～6本しかなく、Aさんが義歯の利用を嫌っているため義歯は使用していない。
- 訪問介護サービス（調理・トイレ誘導・食事の見守りなど）を週3回、デイサービスを週2回利用中。

トラブル発生時の状況

- 11:30に担当のホームヘルパーBがAさん宅を訪問。Aさんに体調などを聞きとりし、特に問題がないことを確認。
- ヘルパーBは昼食と夕食の調理を開始。昼食はうどんで、具材としてご家族が用意したAさんの好物であるはんぺん（10cm四方を4等分し、2切れ使用）を盛り付け。
- 11時45分ごろ、AさんはヘルパーBの声かけによって台所の椅子に座り、テーブルに配膳されたうどんを食べ始めた。
- 台所の構造上、ヘルパーBは背中越しにAさんに声をかけながら夕食の調理を続けた。
- しばらくして「うぐっ」という声が聞こえ、振り向くとAさんが喉元に手を当てて苦しそうにしていた。
- ヘルパーBはすぐに駆け寄り、「大丈夫ですか」と声をかけながら背中を強くたたいた。数回繰り返すうちに、Aさんはせき込みながらはんぺんの塊を吐き出した。
- Aさんは意識はあるものの、喘鳴音と咳が続いたため、ヘルパーBはサービス提供責任者の指示で救急車を要請。
- Aさんは病院の搬送され、診察を受けた結果、特段の処置は不要と判断され、その日のうちに自宅へ戻った。

皆さんで考えてみましょう！

Q. トラブル予防の観点から、何ができたでしょうか？



自宅で食事中に誤嚥が発生した事例

調理をしていたホームヘルパーが即座に対応

今回のトラクレ事例の対応から学べることを考えてみましょう！

この事例の対応のポイント

今回の事例における対応ポイントを3つあげました。予見が難しいケースではありますが、そのような状況でも私たちに何ができるか、意見を出し合ってみてください。

ポイント①：継続的な観察と情報共有

- 嚥下能力に問題がないとされていても、年齢や口腔内の状況を考慮し、日頃から嚥下機能（むせ、咳込み、食後の声の変化など）の観察と記録を行っているか。
- 同じ事業所のスタッフはもちろん、ケアマネジャーや他のサービス事業者とも連携し、状況に変化が見られた際には速やかに情報共有できる仕組みが整っているか。

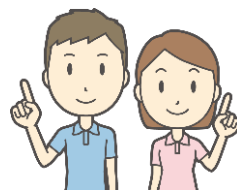
ポイント②：サービス提供時のリスクの再検討

- 食形態や具材に関するリスクを検討しているか。
 - 具材の大きさは適切か（例：はんぺんは汁を吸って大きく膨らむ）。
 - うどんをすすめる感覚で、はんぺんも噛まずに喉に入ってしまうことはないか。
- 義歯の装着を嫌がる場合でも、噛む力の向上や食材を細かくかみ砕く役割を説明し、装着の必要性を繰り返し伝えているか。
- 食事時の姿勢について検討しているか。
 - 足裏がしっかり床につき、座った際に膝の角度が90度になる椅子の高さか。
 - 姿勢はやや前かがみで、顎を引いた状態になっているか。背もたれにクッションを挟む必要はないか。

ポイント③：家族との連携強化とリスク共有

- 家族からも、身体状況の変化や発生したリスクについて積極的に報告してもらえる関係性が築けているか。

顕在化した課題だけでなく、将来のリスクも見据え、日頃から観察・記録・情報共有・備えを行うことが重要です。利用者の状態や生活環境を多角的に捉え、小さな変化に気づく視点が、事故の予防や早期対応につながります。



<情報提供元>

東京海上日動ベターライフサービス株式会社
ソリューション事業部